

## 第3回千葉市新基本計画審議会第2部会 議事要旨

- 1 日 時 令和4年1月20日（木）10時00分～12時00分
- 2 場 所 オークラ千葉ホテル 3階 「ウィンザー」  
千葉市中央区中央港1-13-3
- 3 参加者 《委員》21名（五十音順）  
市橋 民子委員、岩崎 久美子委員、梅澤 孝之委員、江波戸 正子委員、大森 康雄委員、  
小川 順子委員、柿沼 靖委員、鏑木 憲子委員、菊地 端夫委員、斎藤 博明委員、  
斉藤 浩司委員、貞広 斎子委員、仙波 慶子委員、添田 智恵委員、高山 功一委員、  
角田 愛子委員、長岡 正明委員、成田 智子委員、林 暁甫委員、若狭 健委員、  
和田 勝紀委員  
（欠席者 下河原 忠道委員）  
《事務局》9名  
寺井病院事業管理者、宮本教育次長、相楽市長公室長、稲生市民局長、  
富田健康福祉部長、清田高齢福祉課長、植草こども未来部長、堺総合政策部長、  
瀧岡政策企画課長
- 4 議 題
  - (1) 千葉市基本計画（原案）分野別計画について  
（「健康・福祉」、「子ども・教育」、「地域社会」、「文化・スポーツ」）
  - (2) 分野別計画に対する答申（案）について  
（「健康・福祉」、「子ども・教育」、「地域社会」、「文化・スポーツ」）
  - (3) その他
- 5 議事概要
  - (1) 千葉市基本計画（原案）分野別計画について  
（「健康・福祉」、「子ども・教育」、「地域社会」、「文化・スポーツ」）  
前回部会における意見への対応の方向性について、事務局より説明を行った。
  - (2) 分野別計画に対する答申（案）について  
（「健康・福祉」、「子ども・教育」、「地域社会」、「文化・スポーツ」）  
分野別計画に対する答申（案）について、事務局より説明を行った。
  - (3) その他  
今後の開催スケジュール・議事録の確定方法について、事務局より説明を行った。

## 6 会議経過

～以下、議事要旨～

議題（１）千葉市基本計画（原案）分野別計画について  
（「健康・福祉」、「子ども・教育」、「地域社会」、「文化・スポーツ」）

（事務局）前回部会における意見への対応の方向性について、資料１及び資料２をもとに、事務局より説明を行った。

林委員 私から色々と提案させていただきましたが、非常に丁寧な回答をいただくことができ、大変満足しております。ありがとうございます。

議題（２）分野別計画に対する答申（案）について  
（「健康・福祉」、「子ども・教育」、「地域社会」、「文化・スポーツ」）

（事務局）分野別計画に対する答申（案）について、資料３をもとに、事務局より説明を行った。

<意見交換>

菊地委員 この答申を踏まえて、実施計画が策定されることになるとと思いますが、この総合計画自体が、まちづくりの方向性を大きく規定するものだと思います。私を含めて反省のような部分がございますが、これまでの議論はどうしても、分野に対する内容や記述の追加に関する意見が多かったと思います。

しかし、これからの千葉市を含めた自治体は、限られた資源の中で、政策や施策を展開していく必要があります。

そのため、「各分野に共通する内容について」の（３）に関して、足し算の議論だけではなく引き算の議論も必要になりますので、優先順位を含めて記述を検討するという文言を追加いただきたいと思います。

堺総合政策部長 確かにご意見は重要な視点であり、今後、総人口や生産年齢人口が減少していく中、税収には限りがありますので、どのように施策を展開していくかは大きな課題です。

一方、答申上の取扱いとしては、どこの部分で意見を反映するか検討させていただきます。最終的に、総論部分と各部会の答申を組み合わせることになりますので、各分野に共通するご意見として整理するのか、あるいは、総論においても持続可能な行財政運営という項目を設けておりますので、計画全体に対するご意見として記述するというところもあるかと思えます。

おそらく、市政運営全般にかかる視点になるかと思えますので、そのようなことも含めて、全体的な整理をさせていただきます。

貞広委員 これまでの私の意見も含めて、各委員の意見を適切に反映いただき、御礼申し上げます。その上で、今後、答申を踏まえて基本計画の文章を作成していくにあたり、お願いがございます。

分野３「健康・福祉」の政策３「障害のある人もない人も、自分らしく生活できる共生社会を創る」の部分について、障害の社会モデルを強く意識していただき、障害の個人モデルとならないよう記述していただくことをお願いします。

現在の記述は、人ではなく、障害そのものに対する理解であるとか、障害により社会参加できないのは、個人の障害の問題ではなく、心のバリアフリーや社会のシステムが整っていないなど、社会モデルの視点による記述がポツポツとありますが、逆に、個人モデルの視点のように読める記述もあります。そのため、ぜひ、社会モデルを強く意識した記述で全体を貫いていただくとともに、今後の政策も個人モデルではなく、障害の社会モデルに基づいて進めていただきたいと思います。

- 市橋委員 答申案の2ページ目の1行目、「高齢化の一層の進展を踏まえ、終末医療ケアに関する記述を追加すること。」について、「終末医療ケア」は「終末期医療ケア」とした方が適切ではないかと思い、意見させていただきました。
- 資料2の分野別計画の修正案では、「終末期医療ケア」となっておりますので、同じ表記としていただければと思います。
- 和田委員 答申案1の(4)から(6)までについて、この計画は多くの労力と時間をかけて策定するものですので、何としても市民や市外の方に理解していただく必要があると思います。例えば、読みやすさ、分かりやすさに努め、ホームページに掲載するだけでなく、紙による伝達など色々な方法によって、市民や本市を取り巻く環境の方々へ理解されるよう、切にこの3項目に取り組むようお願いいたします。
- 梅澤委員 ここまでまとめていただき、本当にありがとうございます。計画にあるように、皆さんの個性が溢れてまちが充実することができれば、一番いいと思います。
- この内容とは別になりますが、弊社のスタッフが学校教育審議会の委員をさせていただいており、その中で子どもへのアンケート結果のうち、2つの項目について、衝撃を受けたことがありましたので、紹介させていただきます。
- 1つ目は、「子どもたち、小中学生が、地域や社会を良くするために何をすべきか考えることができますか」という質問に対して、小学生は約50%、中学生になると低くなり38%という数字でした。この結果を踏まえ、今回まとめた計画を子どもたちに実施することが、すごく重要ななと思います。
- 2つ目は、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、小学生が80%、中学生が65%と、成長していくにつれて現実味を帯びて低くなったことが、衝撃的でした。今回、計画したものがきちんと子どもたちにも反映されて、市民全員が個性や自分を活かせるだけでなく、未来をつくっていく子どもたちにも何か届いていけばいいなと思いました。
- 感想になりますが、私たちも引き続き頑張りますので、よろしく申し上げます。
- 大森委員 修正案の分野4「子ども・教育」の政策1施策2の主な取組みについて、前回の意見を踏まえて「ニーズに応じた民間保育園等の整備」を「保育の受け皿の確保」と公立保育所も含めた文言に修正していただき、ありがとうございます。
- そもそも児童福祉法では、保育の実施主体は「国及び自治体」と規定されており、我々民間事業者ではありませんので、その辺りも十分ご理解いただきたいと思ます。
- 小川委員 感想になりますが、資料1のNo.2の、まちづくりの総合8分野の並び順について、最初、私は重要な課題や重きを置いている分野の順番かと思っていましたが、SDGsのウエディングケーキモデルの考え方を参考にしているとのことで、ちょっと納得しました。色々な分野があり、どの分野も大事ですが、やはり10年先を見据えて進めていくには、どこに重点的に取り組むかを大事にしていかなければならないと思います。
- 併せて、教育の分野に関して、最初に児童館ができると聞いたときに非常に期待し、中央区に大きい立派なものがありました。しかし、中央区や近隣の方はいいと思いますが、他の地域には児童館がありません。自分自身が児童館のある地域で育ったので、児童館のありがたさや大切さをすごく感じています。地域の子どもたちを見ていると、低学年の頃はいいですが、中高学年になると行くところがなく、自転車でコンビ

ニの周りをたむろしたり、ウロウロしたりしています。また、タブレットを1人1台持っていても、それが利用できない家庭環境の方もいらっしゃると思いますので、地域に児童館のような自由に行ける場所があるとよいと思います。アフタースクールに積極的に取り組まれておりますが、やはり学校でやるということは自転車に乗って行くことができず、申し込みの必要があり気軽に行けないと感じますので、子どもたちが気軽にふらっと行ける、安心して過ごせる場所というのが、子どものことを大切に考えると、少しでもできると嬉しく思います。

柿沼委員

普段から、国際交流、海外もそうですが、特に千葉市に住んでいる外国人の方向けの事業を行っておりますので、その観点から感じたことをお話しします。

私たち日本人市民は、それぞれ個人ごとに異なる人生感や価値観を持っていると思いますが、外国にルーツのある方は私たちが想像できないぐらい、様々な人生感と価値観を持っていると思います。こういった方が安心して千葉市で生活できるような取り組みを、私たちも含め、千葉市全体として行っていくべきだと考えております。

また、最初にこの基本計画（原案）を読んだときに、外国籍の人だけでなく、LGBTや障害のある方、高齢者の方など、そういった記載が至るところにあり、すごく配慮しているのだと改めて感じたところです。

加えて、このような会を通じて、それだけでは不十分だというようなご意見が委員のみなさまから出ておりましたので、より良いものになったのではないかと感じております。本当に皆様、色々なご意見を聞かせていただき、ありがとうございました。

鏑木委員

子どもの教育に関して、市全体の文化やスポーツなどを学ぶことはもちろん重要ですが、実際に居住し、生活している小さな自分の地域についても、もっと学んで欲しいと常々感じております。

また、その小さな自分の居住地の状況を知って、福祉などそういうところに目を向ける教育についても、小さい頃からぜひ学んでほしいと常日頃感じています。

斎藤委員

第1回の第2部会に所用のため出席できませんでしたが、AI等を利用した医療提供体制の充実をぜひ入れていただきたいと思います。

10年後はおそらくAI等の技術は進化していますので、当然、医療にも取り入れられてくることは誰も否定できないことだと思います。

特に、健診や癌検診に対してAI等を利用し、なるべく誤診や見落としを少なくしていく技術はそう遠くなく開発されていくと思いますので、おそらく、検診等にはどんどんそういう技術が取り込まれていくと思います。

10年後のことは分かりませんが、少なくともAI等がある程度の役割を果たす社会になっていることは間違いないと思いますので、ぜひその点を入れていただきたいと思います。要するに、デジタルとアナログがありますが、デジタルの面に関してはAI等を、アナログの面に関してはかかりつけ医などを広めていき、人との接触を温かく保てるような、2本立ての方針が必要だと思いました。

斉藤委員

意見を踏まえた答申（案）をまとめていただきまして、ありがとうございました。

やはり健康・福祉の分野は医師会、歯科医師会、薬剤師会とともに、今後10年、この答申書と新しい基本計画に沿って進んでいくよう、ぜひお願いしたいと思いません。

普段会わない皆様方のご意見を伺い、大変勉強になりました。今回、この会議に参加させていただき、ありがとうございました。

仙波委員

私もこの会に参加させていただき、色々な方々のご意見を伺うことができました。大変参考になりましたし、大変良かったと思っております。

事務局の方々も、この答申案を本当に我々の意見を踏まえていただいて、このようにまとめていただきましたことに感謝申し上げます。

この計画は10年間ということになっておりますが、やはり3年ぐらいで適宜、見直しをすることも必要ではないかと思えます。この計画通りになりましたら、私たち市民も千葉市に住んで良かったということになると思えますので、ぜひこの計画を進めていただきたいと思います。

高山委員

千葉市の身体障害者連合会の会長をやらせていただいておりますが、私の前会長に岡田という人がいます。この人が、連合会の目玉にしようと小学校での福祉講話にもすごく力を入れてくださり、私たちもそれを引き継いで、現在に至っています。

福祉講話は、小学校の子どもたちだけを教育するのではなく、子どもたちを通じて、ご両親や祖父母に、多目的トイレや多目的駐車場が何のためにあるのかということを知っていただければと思います。そして、子どもを通じて、優しい大人になっていただこうというような取り組みを行っています。

また、視覚障害者、聴覚障害者などそれぞれに悩みがありますが、令和4年度の福祉講話からは、知的障害者のご両親に知的障害について教えていただき、知的障害がある子どもたちに優しく接してもらえるよう、協力していただきます。

そして、健全な子どもたちが、正しい福祉について学んでもらえればと、取り組んでおり、今後もずっと続けていきたいと思えます。

そして、福祉講話を聴いた子どもたちが、とても優しい大人に成長してもらえれば本当に嬉しく思います。どうぞよろしく願いいたします。

成田委員

このような重要な千葉市の計画について審議する場に、知的障害の団体を入れていただき感謝申し上げます。

先ほど、身体障害者連合会の高山委員からお話があったように、これまで知的障害の分野は小学校への福祉講話に入っておりませんでした。千葉市と身体障害者連合会からのお話をいただいて、来年度から知的障害も福祉講話に入れていただくことになりました。知的障害は、障害の中でも分かりにくい障害ではないかと思っておりますので、小学生やこのような場でお話をさせていただくことは、私たちにとって大変重要なことであり、ありがたく思っております。今回は本当にありがとうございました。

それから、計画全体の表記について、アントレプレナーシップ教育などのカタカナ語の中には、一般には分かりにくい言葉もありますので、注釈をつけていただくとありがたいと思えます。

若狭委員

このような場に参加させていただくことができ、そして、審議として色々なお話を伺いながらお話をさせていただき、すごく充実した時間になっています。こういった機会が、教育の一環として、若い人にもあればいいかなと思えます。

感想ですが、このような計画の下、皆さん頑張ってくださいているのだと感じました。一方、市民としてももう少し能動的に頑張っていかなければならないかなとも感じています。私は教育学部を出ていたので、修正案の先生たちの働き方改革がありますが、先生たちはきっと大変だろうと思いつつも、もう少し、保護者の方たちも何か工夫をする余地があれば、やっていくべきなのかなと感じております。

そのようなことは書くのは多分難しいと思えますが、実際、市民としてももう少し、

地域に能動的に関わっていかなくてはならないと思えるきっかけの場になりました。

また、先ほどAIなど色々なことが出てきましたが、多くの分野があり、行政も色々な課があると思いますが、私たち市民が悩んでいる時は、実は何に悩んでいるのかをあまりよく分かってなかったりするので、市民のふわっとした悩みを掬い取っていただける仕組みがあると嬉しく思います。

チームの仲間から、ちばしアイデアボックスというのがスタートしていますと教えていただいて、登録をしようと思ったのですが、LINEなどそういったアカウントが必要となっており、前提の知識がない人には参加しづらいところが引っかかりました。もう少し参加しやすくなるといいという意見を、気軽に日常的にできる環境を市民としてもつくっていければと感じました。

添田委員

今回はこのような計画に携わらせていただいて、本当にありがとうございます。

私は車椅子バスケットボールを主にやっていたので、こういった計画がこんなに多くの方々の議論の上に成り立っていることを初めて知りました。そして、この会議での皆さんの非常に高い熱量に毎回圧倒されていて、自分が市のことに対してあまりアンテナを立てていなかったなという反省がありました。

自分の活動の1つとして、千葉市の小中学校に車椅子バスケットボールの体験会として訪問させていただいています。これまでは、普及活動の一環という気持ちで参加していましたが、皆さんの意見を色々伺い、自分も少しずつ勉強するようになり、この学校体験が障害への理解という福祉の面で開催されていることを知りました。限られた時間ではありますが、目的に即したメッセージや、障害理解といっても障害のことだけではなく、障害は1人の人間のただの違いの1つに過ぎないということを、メッセージを工夫しながら、1人でも多くのお子さんに伝えられるよう頑張ろうと行動しています。

また、障害のある子どもたちは、地域レベルでの体験会には参加してもらえても、継続的にスポーツをする場がなかなかなく、スポーツがしたくてもできない子どもたちが多くいることを非常に痛感しています。千葉ホークスでは、これから下部組織を立ち上げ、できる障害とできない障害が区別されてしまっていますが、できる障害の子どもたちには、継続的にスポーツをできる環境をつくっていこうと取り組んでいます。コストや人材の面など課題がたくさんありますが、そこが解決できるようになれば、いずれはどんな障害のある子どもでも、もちろん障害のない子どもでも、一緒にスポーツが地域レベルでできるようになればいいと思います。

皆さんの熱量を自分のエネルギーに変えて、少しでも地域が発展できるように寄与していきたいと思いました。今回、皆さんの発言やご意見を伺い、大変勉強になりました。どうもありがとうございました。

角田委員

私は公募委員として参加させていただいたので、お礼と感想のみになります。この基本計画が、このように多くの色々な分野の専門の方々が集まって議論することで、細かいところまで行き届いていくのだと目の当たりにして、すごく勉強になりました。ありがとうございました。

感想ですが、次の基本計画は10年間ということで、計画が終わるころには今の子どもたちが大人になっていると思います。今度、また新しい基本計画を策定するとき、その大人になった子どもたちが私みたいに公募委員として関わるような千葉市になっていたらいいなと思いました。

長岡副部長

また、「どうせ自分は関係ない」のような言葉がなくなるといいなと思いました。

皆さんの意見や寄せられた色々な文書を含めて、本当に素敵だと思いました。ぜひ、この基本計画が絵に描いた餅にならないよう市民に広く周知していただき、市も頑張るけど、私たちも頑張らしましょうというふうにできればと強く思っています。

機会をいただきましたので、部会の意見とするかは別として、発言させていただきます。場所の問題が少し不明確ではないかと感じており、子どもの遊び場所にしても大人の交流の場所にしても、場所をどう提供していくのかというところが、少し物足りないと思います。

国を含め、千葉市でも公共施設の見直しが行われています。例えば、私が関係する児童センターや老人センターも役割を終えたということで条例が廃止され、建物の解体が始まっています。廃校になった学校の跡施設についても、民間売却され、マンションや戸建てが建つというようなことになっています。児童センターも老人センターも役割を終えたとのことですが、なぜ役割が終わったかという点、当初、学童保育のために建てられたが、学童保育が私たちの運動によって児童福祉法に規定され行政がやるようになり、要らなくなったためです。幼稚園が足りない時代に幼児保育もやっていたのですが、これも少子化によって不要になりました。

しかし、私の地域では児童センターと老人センターは一体の建物でしたので、地域の放課後や休日の子どもやお年寄りの居場所となり、卓球、文化、踊りなど、空いている時間帯で色々な交流が図られていました。せっかく、色々な人が自由に使える施設をなくしていくことがないように、行政に頑張ってほしいと思います。特に、太鼓はどこでも叩けるものではなく、場所によっては叩けないところもありますので、日本の文化を大事にするためには、やはり叩ける場所も必要かなと思います。公共施設の見直しと関係がありますので、場所をどう提供していくかについて、行政としてきちんと押さえていただきたいと思います。

続いて地域教育について、千葉市では、加曾利貝塚と千葉氏を高く評価されており、私自身も貝塚をもっともっと世界に広めていきたいと思っています。

また、地域、特に部落ごとには色々貴重な歴史があります。例えば、黒砂では、平将門の末裔が今でも6家族住んでいます。また、菅原孝標女が市原から帰るときに黒砂で泊まり、詩を読んでいるなど古い歴史があります。このような地域ごとの歴史がありますので、そういうことを地域の子どもたちに伝えていかないともったいないので、ぜひ、そのような機会を盛り込んでいただきたいと思います。

また、埋め立てられましたが、昔、稲毛海岸では魚介類が数多く取れて、黒砂公民館に飾ってあります。今はなくなってしまったとはいえ、稲毛海岸はこんなに多くの魚介類が取れる素敵な海だったということも伝えて、歴史を大事にする、興味を持ってもらうことが大切ではないかと思っていますので、よろしくお願いします。

最後になりますが、資料準備をされた事務局の方々に感謝しております。ありがとうございました。

岩崎部長

最後に私からも皆様に感謝の言葉を述べさせていただきたいと思っています。委員の方々には、それぞれのご経験やお立場から貴重な意見を多く出していただき、本当に感謝しております。市民の声を代弁する形でご発言されたご知見やご意見は、市の方に十分に届いていると思います。また、副部長からありました通り、市の職員の方々が会議の中で丁寧に誠意を持って、委員の方々のご意見に対応してくださったこと

に、非常に感動しております。

立場の違う方々が一堂に会することはなかなかありませんし、知り合う機会も少ないものですから、この有意義な場を通じてできたネットワークを礎に、今後も市の事業などの具体的な場面で、お力添えをいただけたらよろしいのではないかと考えております。

この答申案ができ上がるまでの間、委員の方々、市の関係された方々、円滑な運営並びに生産的な議論にご協力いただき、ありがとうございました。

堺総合政策部長

委員の皆様から多数のご意見を改めて頂戴し、本当にありがとうございます。

時間もありますので一つ一つお答えすることは難しいですが、皆様からご感想と言いながらも、具体的な取り組みに対するご提案や具体的に追記をいただきたいというようなお話もございました。先ほど部会長が仰いました通り、最終的に答申をまとめていく過程において、我々としても改めて本日のご意見を踏まえて答申案への盛り込みができるかどうかを含め、再度、検討させていただきたいと思っております。そして、その結果については、改めてお示しさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

また、計画そのものに関するお話では、例えば、施策の順番について SDGs に基づいた流れというお示しをしつつ、どの分野に重点を置くのか、あるいはどういうタイミングで見直しをしていくのかというご意見がございました。こちらにつきましては、基本計画に基づく実施計画というものが3年ごとに行われます。当然、総合的に取り組んでまいります、その中でもこの3年ではどういうところに力を入れていくかということについて、しっかりと議論させていただきます。その過程の中でも見直しがありますし、また事業を進める中で、上手くいかない、あるいは新たなテクノロジーなどにより別の方策ができるようになったということについては、できる限り柔軟に改善を図って進めていきたいと考えております。

続いて、和田委員からの市民への周知につきましては、我々としてもご意見の通りだと思っております。この計画は、内容が充実しつつ、分量も大きなものになっておりますので、計画のエッセンスをどのようにして市民の方々と共有していくかを宿題として、しっかりと進めていきたいと思っております。

また、先ほどの福祉講話の充実や障害のある子どもたちがスポーツできる環境というようなお話も含めて、やはり本日お集まりの皆様はじめ、市民の方々、色々なお立場の方々のお力添えがあつてこそ、まちづくりが進むということを改めて認識させていただきました。ぜひ、この場に限らず、今後のまちづくりにおいてもご指導、ご支援、連携をお願いしたいと思います。

寺井病院事業管理者

一言感謝の言葉を述べさせていただきます。

私自身、45年間小児科医として今も患者さんと向き合っておりますが、このような会で子どもたち、障害者や障害のある子どもたち、高齢者の方としっかり向き合っていくという議論が交わされることは、すばらしいと思っておりますし、医療者として感謝しております。

この2年間、新型コロナウイルス感染症でかなり大変な状況になっております。現在、千葉市では子どもは主に海浜病院に入院しておりますが、非常に増えているのが、拒食症や急性薬物中毒、リストカットの跡がある10歳から15歳くらいの子どものです。



どうしてこのようなことが起きているのか、もちろんコロナの影響もありますが、コロナが始まる前からの日本の難しい問題として、自殺者が低年齢化していることがございます。これは、先進国の中で低年齢の子どもたちが多く自殺する国は日本であり、改善していかなくてはなりません。15歳から40歳くらいまでの死因の第一位は、この30年間ほどずっと自殺となっており、10歳から15歳までの死因も今では第2位になっています。

このようなことや、コロナや拒食症のことなど、非常に悩みを持った子どもたちが病院に来るということについて、私自身なぜこのような社会になっているのかと時々思います。やはり、委員の皆様からもございました多様性、あるいは共生社会といった地域での共生、コミュニケーションといったものが、集合住宅の増加などの影響もあると思いますが、昔に比べると希薄になっているのではないかと思います。

先ほど貞広委員も仰いましたが、社会としての仕組みが非常に大事だと思います。例えば、障害を持ったお子さんや医療的ケアが必要なお子さんは、障害や症状の程度により、特別支援学級か特別支援学校に通っているかだと思います。そして、そのような子どもたちとどのように交わっていくか、普通学級の子どもたちがどのように向き合い、交流を深めていくかが非常に大事なことだと思います。

加えて、私どもの病院に入院される方の中にも、外国籍の方でリストカットをして、日本語もなかなか話せないという方もいます。移民が厳しい日本で、子どもの頃から多国籍の子どもたちと接する機会が少ない社会の中で、そういう外国から来た日本語を話せない方をどのように支援していくかが必要です。海外では、例えば、セカンドランゲージクラスという英語が話せない子どもが英語を学べる環境が普通の学校の中にあり、そういった中で交流も深まっていくということも思いますので、取り組みがされていると思いますが、考えていかなくてはならないと思います。

最後に、私自身は専門が心臓病ですので、心臓病を患った障害のある子どもたちを高齢者になるまで見てまいりましたが、そういう子どもたちが将来目指す職業はというと、医者など医療従事者になりたいという子どもが結構多いです。そして、実際に医師、看護師、薬剤師などの医療従事者になっている人がたくさんいます。

しかしながら、経済的な事情により自分の思いが達成できない場合もございます。子どもの教育や支援は国の話になりますが、ぜひ千葉市がモデルとなるような形で、少しずつ進めていければと思います。

少子超高齢社会ですが、やはり小さい子どもたちをどのようにして守っていくのか、あるいは高齢者をどうやって気持ちよく社会の中で生きていっていただくのかについて、私自身も医療者として、何とか関わっていきたいと思っております。

そして、医療的ケア児がどんどん増えていますので、医療的ケア児の保護者が働けるような保育の仕組み、これは千葉市も色々取り組んでおりますが、そういったことも少しずつできるような形にしていければと思います。

長くなりまして申し訳ありませんが、ありがとうございました。

堺総合政策部長

病院事業管理者から、医療の現場の視点で実態も含めた話がありましたが、これは病院に限らず、福祉をはじめ様々な現場で、非常に難しい課題を抱えた市民の方々のやりとりを基礎自治体として行っております。

そういった中でも、この計画ではより輝けるような方向性を持ってということで、計画の中ではセーフティーネットという言葉で端的に表現しておりますが、課題の解

決、そしてさらに上を目指す計画として、整理させていただいております。そういった現実の課題とも直面しながら、今後ともしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

林委員

私からも一言だけ皆様に申し上げたいと思い、手を挙げさせていただきました。

元々千葉市に住んでいた関係ではありませんでしたが、以前、文化芸術の観点から有識者枠としてヒアリングをいただいた後、千葉市からぜひこの審議会に入っていたきたいと呼んでいただき、このような機会を得ることができました。他の委員が仰いましたように、本当に多様な知見を持った方々とこの千葉市をどのようにしていきたいのかについて、専門性のある議論に参加することができ、とても嬉しく思います。

1点、全体に関する事として、私は千葉市の近くに住んでいた身として、本当に千葉っていいところ、色々なことがあるじゃないかと有識者インタビューの際に話しました。もっと自信持っていていいのにと常々感じていましたので、この10年の中で、千葉市に住んでいることや千葉市に関わったこと自体が自然と自信になり、色々なZOZOや民間企業が入ってのこの審議会が、ますます千葉市という場所の力を作っていくことに期待したいし、私自身も何らかの形で引き続き、関わればと思いますので、御礼申し上げたく手を挙げさせていただきました。どうもありがとうございます。

菊地委員

2点ございまして、1点目が分野に関する追加の意見です。

地域社会について、答申の中で地域社会の根幹である町内会あるいは自治会の活性化というお話がございました。千葉市において特に人口が増えております美浜区や中央区、特に美浜区では、持ち家に占める集合住宅の割合が非常に高くなっております。集合住宅は、既存の地域社会にとって場合によっては、町内会に入らないということに関わりが難しいというご意見もあると思います。

千葉市では、集合住宅の管理組合を「みなし町内会」として位置付ける取組みを全国に先駆けて、だいぶ以前から行っているかと思います。今後の人口増の中で集合住宅の割合は全国的に増えていくということですが、町内会を中心とした地域社会の繋がりが薄れていくというようなことではなく、私自身は管理組合の中にもコミュニティが存在していると思いますが、管理組合も地域社会として位置付け、このような新しい関わり方についても、少し触れた方がよいかと思います。特に、地域社会というのは千葉市において重要な位置付けになるかと思いますので、念のため申し上げておきたいのが1点目です。

2点目は、先ほどから林委員も含めて皆さんが仰いましたが、特にこの部会での議論についてです。部会で皆さんのご意見を聞く機会が非常に増えて、もっと詳しくお話を聞きたいという方の話ばかりでした。そういう意味で、この委員同士の熱量を持った議論や会話が、この部会の空気を作っていたと思っております。

我々自身も、ここで作った計画を実施していく中で意見を述べる立場だけではなく、重要なリソースにもなると思います。多様な主体の連携という話がありましたが、今回、この新基本計画審議会を通じて初めてお会いする委員の方もいらっしゃいますが、審議会が終わった後もお話を聞きたいという方がたくさんいらっしゃいました。そういう意味で、まさしくこの審議会の多様な主体が連携して、今後の10年間のリソースとして、何か新しい面白いことができるのではないかと非常にワクワクする雰囲気を毎回感じておりました。我々自身が何か連携できることがあれば、委員の皆さんにもぜひよろしくお願ひしますということをお願いしておきたいと思ひます。

堺総合政策部長

菊地委員から、集合住宅の管理組合のお話でしたが、その他にもこれまでの単位自治会や地域運営委員会、あるいはその先も含めて、今後どうやっていくのかというところについては、課題認識を持ちながら記載をさせていただいているつもりでございます。そのうえで、答申への反映、又は具体的な仕組みについて、検討させていただきたいと思います。

まさに、この審議会自体が多様性の体现の場であり、本当に活発かつ多様な議論をいただいて感謝しております。菊地委員が仰いました通り、今回の審議会をまたきっかけにして、議論や取り組みが広がっていくことを我々としても期待しておりますし、また、一緒にやっていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

### 議題（3）その他

（事務局）今後の開催スケジュール・議事録の確定方法について、事務局より説明を行った。

特に意見なし。

—閉会—